むぎ公民館報

2024.3月~2024.8月　260号

8.20 シラタマ学級 ものづくりワークショップ

令和六年度 牟岐町社会教育関係者名簿

公民館分館役員

出羽　分館長　本田　妙子
　　副分館長　濱　美樹
古牟岐　分館長　海部　太
　　副分館長　久保田亮二
　　主事　大竹　重喜
　　主事　小島　英和
灘　分館長　吉野　浩治
　　主事　大喜田正道
東の東　分館長　福田　知行
東の中　分館長　竹本　道裕
同　倫　分館長　川村　一久
　　副分館長　小澤　和久
東の西　分館長　大田　雄
　　副分館長　大田　陽子
　　主事　福田　健治
天神前　分館長　一山　昌之
　　副分館長　長岡　弘和
川長　分館長　栗林　春菜
　　副分館長　川部　秀治
　　主事　木村　悠
中の島　分館長　横尾　政明
　　副分館長　居村　仲二
西第一　分館長　岩本　朋
　　副分館長　和田　晃洋
　　〃　友久　哲朗
　　主事　中村　淳子
西第二　分館長　和田　原明
　　副分館長　和田　龍輔
　　〃　元木　奉文
　　主事　和田　昌代
本町　分館長　谷本　純一
　　副分館長　丸岡　朗
　　〃　富田　正巳
上の町　分館長　大谷　一
　　主事　根来　政子
杉王　分館長　野張　直哉
　　副分館長　平井　孝史
山田　分館長　新田　貴文
　　主事　大平　綾
大谷　分館長　原　忠輝
　　副分館長　小栗　泰子
内妻　分館長　久保　義和
　　副分館長　和田　洋希
　　主事　白木　雄祐
清水　分館長　石上　敬介
　　副分館長　岡本　勉
関　分館長　和田佳代子
　　主事　和田　敏子
川又　分館長　百々　史存
平野　分館長　大西　貴幸
笹見　分館長　木内　繁一
　　副分館長　元内　清博
　　主事　百々　健一
西又　分館長　西澤　博之
　　主事　西澤　和宏
赤水　分館長　岡崎　治
横瀬　分館長　蔭谷百合子
　　副分館長　畑　賢次
辺川　分館長　横尾　敦
　　副分館長　古波　直人
小松　分館長　岡崎　真一
　　副分館長　小林　純爾
　　主事　富田　光男
喜来　分館長　古谷　孝司
　　副分館長　古谷　真昭
　　主事　佐古山由美
橘　分館長　吉川　博晃
　　副分館長　元内　甚一

牟岐町公民館

館長　谷　和好
主事　青木　瑞貴

人権教育協議会

会長　藤元　雅文
副会長　石本知恵子
　　〃　谷野　秀樹
　　〃　中山　昌之

青少年健全育成協議会

会長　横尾　浩紀
副会長　和田　敏子
　　〃　小磯　博之
　　〃　井上　正規
　　〃　池田　千晶
　　〃　喜田　守

文化財保護審議会

会長　井上　暁
副会長　中山　徹
委員　葛谷　信也
　　〃　満石　高明
　　〃　杉本　一夫
　　〃　上田　好美

読書友の会

会長　大竹　茂
副会長　藤川はやみ

スポーツ推進委員

委員長　谷　和好
委員　一山　貴美
　　〃　仁田　美江
　　〃　喜田　俊司
　　〃　葛谷　信也
　　〃　横尾美智子

スポーツ少年団

本部長　平井　孝史
副本部長　岡本　美利

体育協会

会長　一山　稔
副会長　一山　貴美
　　〃　喜田　俊司

牟岐町婦人会

会長　石本知恵子
副会長　大平　征代
　　〃　小栗　泰子

牟岐の子どもを育てる会

代表世話人　葛谷　信也
副会長　石本知恵子

（令和六年八月三十一日時点）

12年目をむかえた市宇ヶ丘学園

市宇ヶ丘学園だより 第18号

令和６年８月現在で、保育園児52人・小学生87人・中学生50人が在籍しています。今年の夏も記録的な暑さになりましたが、様々な対策を講じながら子どもたちは元気いっぱい日々の活動に取り組んでいます。今年度前半の活動の様子を紹介します。

歯みがき教室

歯科衛生士の川柴さんによる歯みがき教室に保護者と一緒に参加しました。

海部老人ホーム訪問

ささぐみさんが海部老人ホームのおじいちゃんおばあちゃんとのふれあいを楽しんできました。

夏まつり

連百夏の方との競演を楽しみました。

小学校１年生　七夕飾り

7月、牟岐あんどんの会の方々に、いろいろな七夕飾りの作り方を教えていただきました。とても楽しく作ることができました。作り方を覚えた後は、自分たちだけでも作り、校内七夕あんどん展の時に飾りつけました。

小学校３年生　茶摘み体験

6月に牟岐町の茶畑で、お茶の葉を「摘む」、「炒る」、「揉む」体験をさせていただきました。子ども達は、地域の方々が教えてくださったことをよく聞いて楽しく活動できました。後日、お茶にして、おいしくいただきました。

小学校5年生　サーフィン体験学習

夏休み登校日に内妻で牟岐サーフィンクラブの方々に指導していただきました。波乗りは初体験の子ども達でしたが、2時間弱でボードの上に立つことができました。牟岐の自然とふれあう貴重なアクティビティーでした。

小中合同運動会

突然の雨に見舞われ、一部の競技を体育館で実施するというハプニングもありましたが、今年も楽しい運動会にすることができました。

小中合同ごみゼロ活動

今年度、初めての試みとして５月30日（ごみゼロの日）に小中合同で海岸清掃活動を行いました。

職場体験学習

今年度は中学2年生が職場体験学習をすることになりました。地域の方々のご協力のもと、働くことの楽しさ・大変さを体験することができました。

【第七二回四国地区人権教育研究大会　報告原稿より】

地域社会福祉活動を通した人権教育の取組

～牟岐中学校における総合的な学習の時間の取組を通して～

牟岐町社会福祉協議会　枡富　幸子

一　はじめに

四国の右下に位置する徳島県牟岐町は、美しい海や山に囲まれ、空気や水が澄んだ自然豊かな町である。二〇二四年四月一日現在の人口は三五一六人、近年では年間出生数は一〇人前後となっており、高齢化率五四・三二パーセントと少子高齢化が深刻である。また、商業の衰退、第一次産業従事者の高齢化と後継者不足のほか、地域にも家族にもなじめず孤立する人、ヤングケアラー、八〇五〇問題、南海トラフ巨大地震への不安など町の課題は多く、津波が来ても「逃げることをあきらめている」という住民もいる。

そんな牟岐町であるが、津波に備え安全な高台にある中学校に隣接するよう保育園・小学校を統合移転し、学校地域が一丸となって子どもの成長を支えている。牟岐っ子サポーターとして老人会は一八年ほど前から子どもたちの登下校の見守りを続けており、元気な挨拶が溢れている。婦人会は学校にたくさんの花を植えたり、ボランティア活動の一環として子どもたちと一緒に津波避難所の掃除をしたりしている。また、小中学校の授業に地域人材をゲストティーチャーとして活用するなど、子どもをサポートする活動は数々ある。

子どもたちは様々な活動を通して地域の人の温かさに触れ、地域の人たちに大切に見守られていることを感じ、自分たちも地域のために役立ちたいと考えている。

二　牟岐中学校における総合的な学習の時間での取組

牟岐中学校における総合的な学習の時間は、五つのコースがあり、いずれも地域の人が講師として参加している。社会福祉協議会が担当する「レッツボランティア」では、様々な福祉体験を行っている。

年度当初には、自分の中にいるよい面とわるい面などの二つの役を決めて、社会福祉協議会職員が手作りの小道具やカツラ、カーテンを使った衣装を身にまとって登場し、「助けたい。」「いや面倒。恥ずかしい。」など、葛藤しながら「自分から動く。」「自分から何かを変えたい。」と思うそんな気持ちがボランティアにつながるという寸劇を披露した。その後、みんなで意見交換をする中で子どもたちのボランティアについての意識を高めていった。

その後、収集ボランティア活動や赤い羽根共同募金の歳末たすけあい街頭募金、地域福祉活動についての話し合い、NPO法人プラスアーツが考案した「イザ！カエルキャラバン！」のイベントなど、年間活動計画に沿って多くの活動を体験した。

「イザ！カエルキャラバン！」

（一）認知症サポーター養成講座

高齢者の多い町ということで、高齢者に対する理解を深めるための一環として、認知症サポーター養成講座を行い、「年齢を重ねると人間はどのように変化する？」「物忘れと認知症の違いは？」「どのように接したらいい？」など学んだ。また、「高齢者は人生の大先輩であり、様々な経験を積んでおり尊敬すべき存在であること。」を伝え、「認知症を正しく理解し、偏見を持たないことや、温かい目で見守ること」などが大切であることを確認した。

その後、小学校五年生を対象とした講座を行う際に、中学生に寸劇などに参加してもらった。大人が演技するより、歳の近い身近なお兄ちゃんお姉ちゃんが見せてくれることで、より関心を持ってくれると考えたからだ。わるい接し方、よい接し方、ナレーションと役割分担をして、三通りの事例を何度も練習して本番に臨んだ。本番では五年生を前に緊張した面持ちであったが、練習通り頑張って演技することができた。中学生の演技に小学生も興味津々で、あとの話合いではたくさんの意見が出された。

（二）高齢者お宅訪問

これまでの高齢者に関する活動を踏まえて、一〇月には三つの班に分かれて高齢者のお宅訪問を行った。また、高齢者との交流の事前準備として、傾聴ボランティアの方から、傾聴技術のコツを学ぶ体験を行った。ただ人と話をするのでなく相槌をうったり話を聴く姿勢を変えたりすることで、話す相手を思いやることができるとみんなが気付くことができた。

高齢者のお宅訪問では、掃除などのお手伝いをした後、高齢者の方と楽しくおしゃべりをする活動を行った。一つの班は、高齢で柚子の収穫が大変だということを聞き、柚子の収穫を手伝った。二つめの班は高齢者の方と一緒に庭の草抜きを手伝った。三つめの班は部屋掃除のお手伝いをした。中でも高いところの掃除ができないということで、蛍光灯の傘の掃除も行った。手伝いの後で、高齢者の方とお茶を飲みながら、昔の牟岐の町の様子や子どもの頃の話などについていろいろ質問しながら楽しくおしゃべりをすることができた。子どもたちは高齢者の話をうなずきながらしっかり傾聴することを実践していた。どの高齢者も子

どもたちに元気をもらえたと喜んでくださった。

三　活動の中での中学生の変化

意見交換の場では、最初はとまどったり、恥ずかしそうにしていたりする子どももいた。「それぞれ、思うこと、感じ方も違う。決して、人の意見に対して批判したり、否定したりしない」と言うルールで話合いを行った。話合いが進むにつれ、引っ込み思案な子どもには、リーダー的な子どもが背中を押してくれ、発言の後にも「とても、良い意見だったよ。」とねぎらいの言葉をかけることが自然にできていた。また、プログラムの都度、グループ替えを行ったが、どんなグループ分けをしても、一年生から三年生がそれぞれの個性を活かし、協力しあって段々と積極的に取り組む姿が見られた。

子どもたちからは「一人ひとり違った悩みを持っていたり、障がいのある人がいたりする。将来、相談に乗ったり不自由をなくしたりできる大人になりたい」「いろいろな人が牟岐町を支えていることを知った」「カエルキャラバンでは大変だったけど自分の役割をやり遂げて達成感がすごかった」「人のつながりを大切にすること、地域活動に積極的に取り組んでいきたい」などの意見が出た。

四　おわりに

子どもたちはいろいろな体験を通して、地域の福祉活動について学んできた。その中で、人は一人ひとり違いがあり、互いに認め合うことが大切であることに気付くことができた。また、地域のいろいろな人と接することで、人のつながりの大切さにも気付くことができている。

中学校を卒業すると、それぞれの進路のために牟岐町を出てしまう子どもたち。どこに住んでも、人と人のつながりを大切にし、多様な意見を知ってそれぞれの尊厳の確保ができ、互いを思いやり支えあう気持ちをさらに高めてほしいと願っている。子どもの頃から町の現状を知り、困っている人に気付き行動にうつすことができる、相手の気持ちをしっかりと尊重することができるなど、一人ひとりの人権を大切にする気持ちを育てていけるような取組を今後も続けていきたいと考えている。

中学校弁論大会

争いのない世界に

牟岐中学校　三年　後戸　遥斗

この間、テレビからこんなニュースが流れてきました。「来年で終戦八十年目を迎えます。」みなさんは八十年と聞いてどう感じますか？「そんな昔のことなのか。」と思いますか？私は、このニュースを聞いて、「まだ戦争が終わって八十年しか経っていないのか。」と思いました。

戦争のことは、学校の授業で習ったことやテレビで見たことを覚えているぐらいで、詳しくは分かりません。でも、「人と人とが殺し合う」ということは分かります。

今、日本で戦争は起こっていません。しかし、ウクライナとロシアでは戦争が起こっています。

人はなぜ争わなければいけないのでしょうか？なぜ、戦争が始まってしまうのでしょうか？私はこれまで、戦争が起こる理由は、お互いの国が平和を求めているからだと思っていました。しかし、家族が爆撃で亡くなり一人ぼっちになっている子供のニュースや日本に避難してきて戦争の悲惨さを伝える海外の人のニュースを見ると、戦争はどんな願いであってもしてはいけないものだと改めて感じました。何も罪のない人たちが無差別に殺されていたり、家や病院を壊されていたり、本当に残酷だと思いました。

私は去年、沖縄戦をモチーフにした「さとうきび畑の唄」という映画を見ました。戦争当時の様子が想像できて、「怖い」という印象が今でも残っています。また、今までに持っていなかった戦争の怖さも学びました。それは、「戦争が人の心を奪ってしまう」ということです。兄が兵役に行き、「お国のために」と爆弾を抱えてアメリカ軍に突撃し、命を落とすシーンや兵士が死に物狂いで、撃たれながら、血を流しながら戦っているシーンを見て、涙が出そうになりました。最後のアメリカの軍人が日本人を殺さずに助けていたシーンを見た時は、戦争なんてしなくても話し合えば大丈夫なんだと安心することができました。

修学旅行では、アブチラガマに行きました。アブチラガマは、沖縄戦当時に病院壕として使われていた洞窟のような場所です。私たち三年生は実際にその中へ入りました。中は真っ暗でライトで照らさないと歩けませんでした。当時はライトもなかったので真っ暗な中で何日も過ごしていたそうです。そのガマの中では、動けなくなった兵士に隊長の命令で毒薬を盛り、殺してしまったり、食料や飲み物がなくなり飢えに苦しんで死んでしまったりしたそうです。また、死体にはウジがわき、白骨化しているものもあったそうです。私の今の生活では想像もできない話だったので、そのガマの中にいることが少し怖くなってしまったことを覚えています。明かりがあること、体が元気なこと、食べ物がたくさんあること、今の生活ができていることに感謝しなくてはいけないなと改めて感じることができました。

僕は、日本に生まれて本当に良かったと思います。戦争のない平和な日本に生まれ、今まで一度も命の危険を感じることなく生活してきました。家での生活では、リラックスした時間を過ごせたり、温かくておいしいご飯が食べられたり、きれいに洗濯され

た服を着られたり、安心して布団で眠れられたりする幸せがあります。学校での生活でも、友達と一緒に勉強をしたり、バスケやバレーをして遊んだり、休み時間に話をしたりする幸せな時間があります。私は、こんなたくさんの幸せであふれた生活をこれからも続けていきたいと思っています。そのために、これから頑張りたいことは、感謝の気持ちを行動で表していくことです。幸せな家での生活があるのは家族のおかげです。親が仕事を頑張って私の生活を支えてくれています。だから、「ありがとう」と伝えたいし、食器洗いや洗濯物をたたむなど自分にできることはしっかりやって感謝の気持ちを伝えていきたいです。また、普段の生活や学校生活でも、お礼を言うことやあいさつを丁寧にしたいです。そして、困っている人や悩んでいる友達がいたら助けてあげたいです。

小さなことだけど、みんなが感謝の気持ちを行動に表すことができれば、戦争のないたくさんの幸せに囲まれた世界に近づくと思います。私は、その一員として、頑張っていきたいです。ぜひ、みなさんも私と同じ気持ちになってくれるとうれしいです。

「ヤングケアラー」の今を知って

牟岐中学校　二年　石上　優衣

みなさんは「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか？簡単に説明すると、家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、十八歳未満の子どものことです。例えば、学校に行かず、親の介護をしながら家のことをしたり、兄弟の面倒をみたりする子供はヤングケアラーといえます。

私はこの言葉を小学六年生の時に新聞で見て知りました。その時はこの言葉の意味を深くは知らなかったし、大変な子もいるんだなと軽い気持ちで考えていました。でも最近はこの問題が社会問題として挙げられ、「ヤングケアラー」になる中高生の割合が増えてきました。私は同じ歳の子が「ヤングケアラー」として頑張っていて、ただ単に凄いなと思いました。そして、今の自分の環境が当たり前だと思っていたことに気づきました。私の家は八人で住んでいて、家事や学校への送り迎えなど、いつもいろいろなことをしてもらっています。だから、一人で家族の介護やお世話をするのは、想像もできません。ましてや、私には一人で家事をこなすことは絶対にできないなと思いました。「ヤングケアラー」の子は周りから「家の手伝いをよくしている」「しっかりしている」と捉えられる子が多いです。学校でも学業に集中できず、睡眠不足になる中高生が多いそうです。友達とも遊ぶことができずにひたすら家のことを家族のために頑張っています。私だったら投げやりになってしまうし、家族のことを責めてしまうなと思いました。「どうして私が一人で家族の世話をしないといけないの？」とか「私も学校でみんなと同じように過ごしたいな」とかたくさんのことを考えてしまいます。「ヤングケアラー」の子どもたち全員がそんなことを思っているとは限らないけど、そんな気持ちを押し殺して頑張っている子が多いと私は思いました。

現状、中学二年生の約十七人に一人が「ヤングケアラー」になっているそうです。私はこのことを記事で読んだとき驚きました。中学二年生に限定されているにも関わらず、約十七人に一人が「ヤングケアラー」だったからです。私は中高生の中で十七人に一人でも多いなと感じます。そして社会問題として挙がってきている理由が少し分かった気がしました。

そして、もう一つの問題点は「ヤングケアラー」になっている子どもの多くが、相談するほどの悩みではないと思っていることです。自分は、「ヤングケアラー」だと自覚していない子が多いそうです。

そこで私は、そんな「ヤングケアラー」の子たちに自分ができることはないか考えることにしました。「ヤングケアラー」のみんなが外部に相談するほどの悩みではないと考えているなら、その少しの悩みを親身になって聞いてあげることはできると思います。もしその子が「ヤングケアラー」ではなかったとしても、その人の手助けになるはずだし、直接家に行って手伝うことはできないけど、私から先生にその子のことを少し相談しておくことはできると思います。

日本でも海外でも「ヤングケアラー」を増やさないように国が活動していますが、私もできることに少しずつ取り組もうと思います。

今、日本は少子高齢化といわれています。今後、子供たちが少なくなっていく中で、支えを必要とする人は増えていきます。そうすれば、たちまち「ヤングケアラー」も今より増えていってしまうのではないかと思います。そうなると、これからの子どもたちは家事や介護によって学校で学ぶことも、部活をすることもできなくなってしまいます。そのような選択をしなければならない未来ではなく、今、私が当たり前にできているように、子供たち全員が、自分のしたいことができる未来になればいいなと願っています。

シラタマ学級報告

シラタマ学級は、牟岐小学校４・５・６年生を対象に普段の生活では体験できないような、もの作り体験や自然体験学習などを行っています。

☆５月18日 サンドブラスト体験　講師：牟岐あんどんの会

☆６月29日 ウインナー飾り切り教室　講師：日本ハムカスタマー・コミュニケーション株式会社

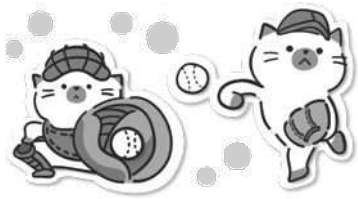
☆８月20日 ものづくりワークショップ　講師：徳島大学建築サークル AUT

公民館分館親睦球技大会

公民館分館親睦ソフトボール大会

令和６年７月８日（月）、旧牟岐小学校グラウンドにおいて、公民館分館親睦ソフトボール大会を開催いたしました。昨年度と同様に「辺川・喜来・橘」「河内連合」「西浦」の３チームと、単独でのご参加ができない分館が「広域連合」として出場していただき、合計４チームで試合を行いました。

７月10日（水）に予定していた三位決定戦と決勝戦があいにくの悪天候のため中止となってしまい、予備日も悪天候で中止となってしまったことで、初日の試合結果の得失点差で順位を決定することとなり、猛打で大量得点した「辺川・喜来・橘」が２年ぶりの優勝を果たしました。



※分館親睦バレーボール大会は参加申込がありませんでしたので、今年度は実施しておりません。
来年度は是非ともご参加のほどよろしくお願いいたします。

ふたば川柳

なぜ病むの　こころ痛める　仏様

枝ひとつ　ひとつが伸びて　家づくり

エンジンの　掛かり良くする　朝の声

大田　一洋

閉ざさない　会話この世を　なめらかに

問答が　したくて　はて　を繰り返す

エンジンが　もう掛からない　村のバス

藤井　りいち

令和六年八月一日

牟岐短歌会

スペインへは　空路なき頃　留学す　故郷の舞台　白髪の舞ふ

※フラメンコの小島章司先生(牟岐町古牟岐出身)のことを歌っている。

弟は　嘘をつくとき　鼻動き　兄の目が泳ぐを　母見逃さず

杉本　雅代

星の数　如何程在るか　問はるれば　七の後に　零二十二個と

※「兆」の一万倍が「京」。垓は京の一万倍。宇宙全体の恒星の数は七百垓という。

昼間でも　河童出そうな　新光淵　キュウリ五、六本　放り込んだろか

山岡　誠次

じゃがいもの　薄むらさきの　花ゆれて　まずはカレーに　ポテトサラダも

いつだって　腕を広げて　迎えくるる　五剣の嶺に　われもなりたし

※牟岐町喜来北側の五剣山の標高は六百三十八メートル。東京スカイツリー(六百三十四メートル)よりやや高い。

藤川　はやみ

大変な　辰の年だと　一致して　土佐鶴ほんの　少しいただく

※今年の元日(辰・龍の年)、能登地方を襲った大変な自然災害を、当初は半信半疑でテレビを見ていた。

夏帽子　チョイとかぶって　川べりを　牟寿の足で　図書館へ行く

藤井　りいち

令和六年八月二日

人のうごき

令和6年・9・1

総人口	3,466人
男	1,629人
女	1,837人
世帯数	1,887戸
高齢化率（65歳以上）	54.21％
出生数（R6.3～R6.8届出分）	4人

ご結婚おめでとう

♥令和六年五月

中山　拓真（喜来）
多田　瞳（滋賀県）

中山　拓真さん・瞳さん

※掲載希望届け　令和六年三月～令和六年八月分まで

お知らせ

『ご結婚おめでとう』
『お誕生おめでとう』

は受付時、牟岐町に住所がある方で、掲載を希望された方を対象としています。

牟岐町外で届出をされた方で、公民館報への掲載を希望される場合は、

★牟岐町海の総合文化センター
（TEL　72－0107）

又は、

★牟岐町役場　住民福祉課
（TEL　72－3415）

までご連絡ください。

お誕生おめでとう

◇令和六年三月
岡本　拓也・亜耶
次男　大和（やまと）（天神前）

◇令和六年五月
正路　早紀
長女　ひまわり（東の東）

◇令和六年七月
山西　達大・しのぶ
長女　十和（とわ）（杉王）

岡本　大和くん

正路　ひまわりちゃん

※掲載希望届け　令和六年三月～令和六年八月分まで

むぎ公民館報　第二六〇号
令和六年九月三十日発行
発行所　徳島県海部郡牟岐町川長
牟岐町海の総合文化センター内
牟岐町公民館
☎0884-72-0107
FAX 0884-72-3388
印刷　福山印刷株式会社